倉吉市文化財調査報告書　第116集

平畑ケ遺跡発掘調査報告書

NTTドコモ上神基地局基礎設備
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

0050277508

郷土資料
0.2
r
16)

平成13年度

倉吉市教育委員会

序

この報告書は、平成13年度に株式会社ＮＴＴドコモ中国が倉吉市上神字平畑ケに建設した、携帯無線上神基地局基礎設備工事に伴って実施した埋蔵文化財の発掘調査記録です。

鳥取県の中部に位置する倉吉市は、数多くの優れた文化財を伝えています。その中でも、上神地区では谷畑遺跡などの祭祀遺跡や多くの集落跡とともに、古墳が密集することが知られています。今回の調査地区は、四王寺山から北東に派生した低丘陵に位置し、工事範囲という限られた調査の中で、古墳の周溝を確認し新たな資料を得ることができました。

この報告書が文化財の理解のための一資料として活用願えれば幸いに存じます。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたりご協力いただきました株式会社ＮＴＴドコモ中国、株式会社熊谷組広島支店ドコモ作業所、ならびに関係各位に対して心から謝意を表するものです。

平成14年３月

倉吉市教育委員会
教育長　八 田 洋 太 郎

倉吉市教育委員会寄贈

例　　言

1　本報告書は、平成13年度に倉吉市教育委員会が、ＮＴＴドコモ上神基地局基礎設備工事に伴う事前調査として、鳥取県倉吉市上神字平畑ケ587番地において実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2　調査体制は次のような組織・編成である。

調 査 主 体　倉吉市教育委員会

事　務　局　倉吉市教育委員会文化課文化財係

八田洋太郎（倉吉市教育委員会教育長）　景山　　敏（教育次長）
眞田　廣幸（文化課課長）　藤井　　晃（課長補佐兼文化財係長）
藤井　敬子（文化財係主任）　森下　哲哉（文化財係主任）
根鈴智津子（文化財係主任）　加藤　誠司（文化財係主事）
岡本　智則（文化財係主事）　岡平　拓也（文化財係主事）
山﨑　昌子（文化財係主事）　金田　朋子（臨時職員）

調査補助員　山根　雅美・松田　恵子

内 務 整 理　泉　美智子・世浪由美子・松嶋あつ子・竹歳　暁子・山本　錦・湯浅　博・前坂　英樹
明里　千秋

3　現場での調査、報告書作成は森下が担当した。

4　第１図（地形図）は、国土地理院発行の１：25,000地形図「倉吉」の一部を複製・加筆したものである。
第２図（地形図）は、１：2,500国土基本図　倉吉市平面図を使用した。

5　挿図中の方位は、国土座標第Ⅴ座標系の北を指す。

6　調査によって得られた資料は、倉吉市教育委員会が保管している。

本文目次

Ⅰ　発掘調査に至る経過 …… 1
Ⅱ　位置と歴史的環境 …… 1
Ⅲ　調査の概要 …… 4
Ⅳ　まとめ …… 4
報告書抄録

挿図目次

第１図　倉吉市周辺の地形と遺跡分布図 …… 2
第２図　平畑ケ遺跡調査区位置図 …… 3
第３図　平畑ケ遺跡遺構全体図・１号土壙遺構図 …… 5

図版目次

図版１　調査後全景 …… 3
図版２　１号墳周溝 …… 6
図版３　１号墳周溝断面 …… 6
図版４　１号墳出土遺物 …… 7

Ⅰ　発掘調査に至る経過

平成12年９月、株式会社熊谷組広島支店ドコモ作業所から、倉吉市教育委員会文化課に倉吉市大字上神字平畑ケ587番地における埋蔵文化財の有無の問合せがあった。これは株式会社ＮＴＴドコモ中国が、当該地に計画した携帯無線の上神基地局設置に伴う事前の埋蔵文化財の確認であった。ただちに現地を確認したところ、四王寺山から北東に派生した標高約41ｍの低丘陵の尾根部分で、丘陵一帯が遺物散布地であった。予定地は、以前に畑として利用されていた荒廃地で、表面観察はできなかったが、隣接する畑では土師器・須恵器などの土器散布や、箱式石棺の石棺材と考えられる石材も確認できた。このため予定地には遺跡の存在が十分考えられ、事前の試掘確認調査を、平成13年度倉吉市内遺跡発掘調査において実施した。調査の結果、上神基地局の予定地中央部から幅約２ｍの南北に延びる溝を確認した。

倉吉市教育委員会は、試掘調査の結果を待って株式会社ＮＴＴドコモ中国、株式会社熊谷組広島支店ドコモ作業所と遺跡の存在による建設計画の変更を協議した。しかし移動電話の基地局の性格から変更が困難であったため、工事予定地の200㎡について事前の発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、倉吉市教育委員会文化課が主体となり、ＮＴＴドコモ中国の委託を受けて、平成13年８月27日～平成13年９月18日まで現地調査を実施した。

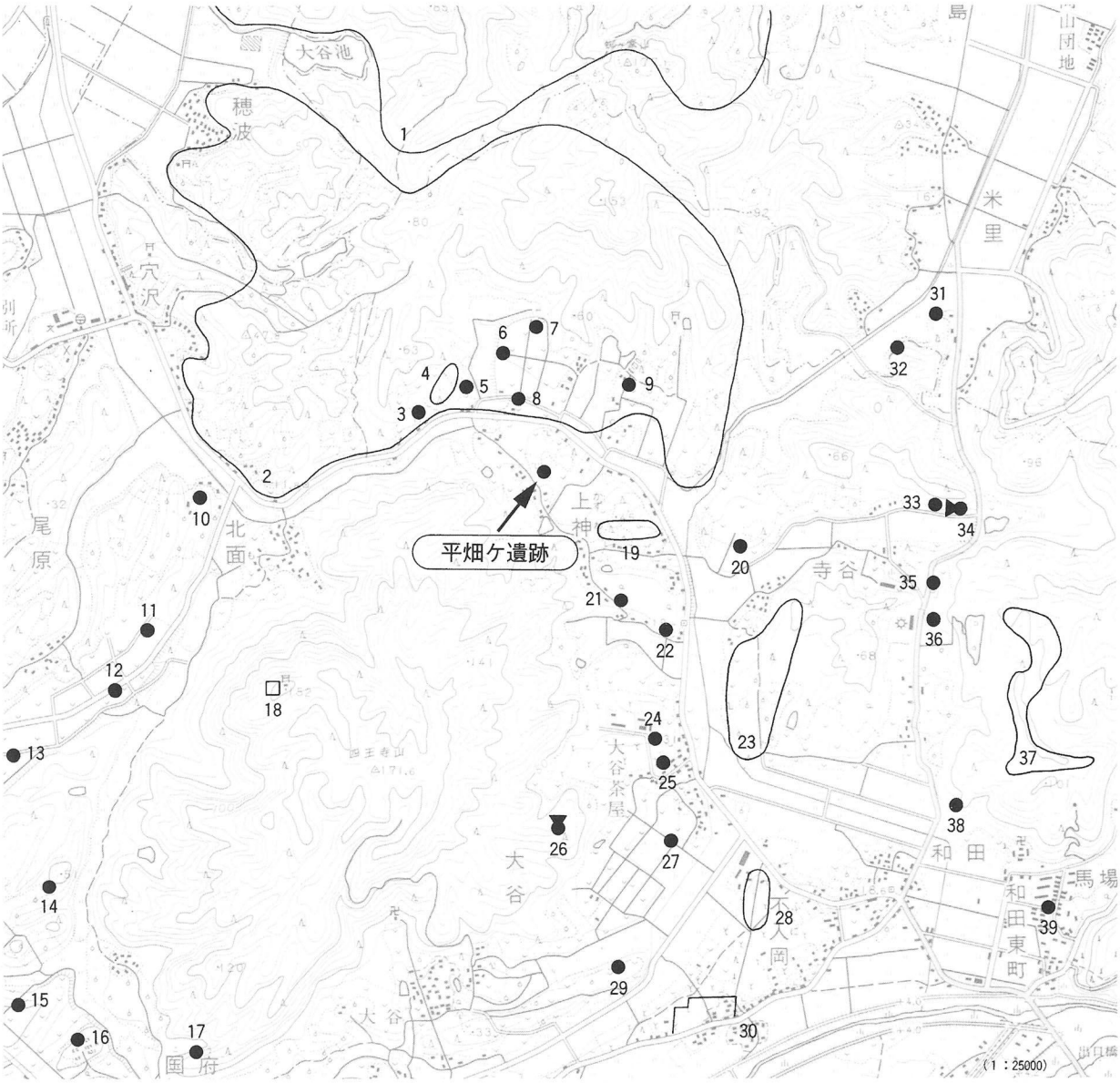
Ⅱ　位置と歴史的環境

平畑ケ遺跡は、倉吉市街地から北西に約４㎞離れた倉吉市上神字平畑ケに所在する。周辺は、四王寺山（標高171ｍ）の東側山裾のなだらかな低丘陵で、樹枝状に入組んだ小さな丘陵が発達する。

蜘ヶ家山と四王寺山に挟まれた上神地区周辺は、倉吉市でも有数の遺跡が密集する地域として知られる。遺跡は上神51号墳墳丘盛土内で細石刃石核が発見されるなど、その始まりは旧石器時代に及ぶことが明らかであり、高鼻２号墳では調査中に細石刃石核が、中尾遺跡や長谷遺跡ではナイフ形石器が出土した。縄文時代では取木遺跡で早期の竪穴住居址と焼石群、イキス遺跡や中尾遺跡で落し穴を確認した。弥生時代ではイキス遺跡で前期の土壙墓群が知られ、西前遺跡Ａ地区から中期の竪穴式住居、蜘ヶ家山の東側にあたる北条町米里で銅鐸が出土する。後期以降、久米ヶ原丘陵を中心に非常に多くの集落遺跡が出現し、人口の増加を物語る。集落にはクズマ遺跡１次・桜木遺跡・上神宮ノ前遺跡・夏谷遺跡があり、古墳時代まで引き続き営まれる。墳丘墓には四隅突出型墳丘墓の可能性がある柴栗古墳群の墳丘墓、墳丘に貼石をもつ可能性のある三度舞墳丘墓、吉備系の大型壷が出土した大谷後ロ谷墳丘墓がある。

古墳時代には、久米ヶ原丘陵に服部遺跡・遠藤谷峯遺跡・中峯遺跡・白市遺跡・大沢前遺跡といった弥生時代後期から続く集落跡とともに、宮ノ下遺跡・擲塚遺跡・大道谷遺跡・矢戸遺跡、上神地区では西山遺跡・猫山遺跡、和田寺谷地区の西前遺跡が出現する。古墳は、舶載鏡三面と豊富な鉄製農具が出土した国分寺古墳（前方後方〔円〕墳・復元全長60ｍ）、大谷大将塚古墳（前方後円墳・全長50ｍ）、鍬形石や琴柱形石製品の出土した上神大将塚古墳（円墳・直径30ｍ）がある。その他、カスガイ状の周溝を持つ方墳群の猫山遺跡がある。５世紀代には、イザ原古墳群、沢ベリ遺跡があり、古墳時代後期には上神古墳群・向山古墳群・大谷古墳群といった小円墳からなる群集墳が多く築造される。

奈良時代になると、久米ヶ原丘陵の東端に国指定史跡の伯耆国府跡が所在し、国庁跡や法華寺畑遺跡、不入岡遺跡などの官衙跡が所在し、近接して伯耆国分寺跡が建立されるなど、古代伯耆国の政治・経済・文化の中心地

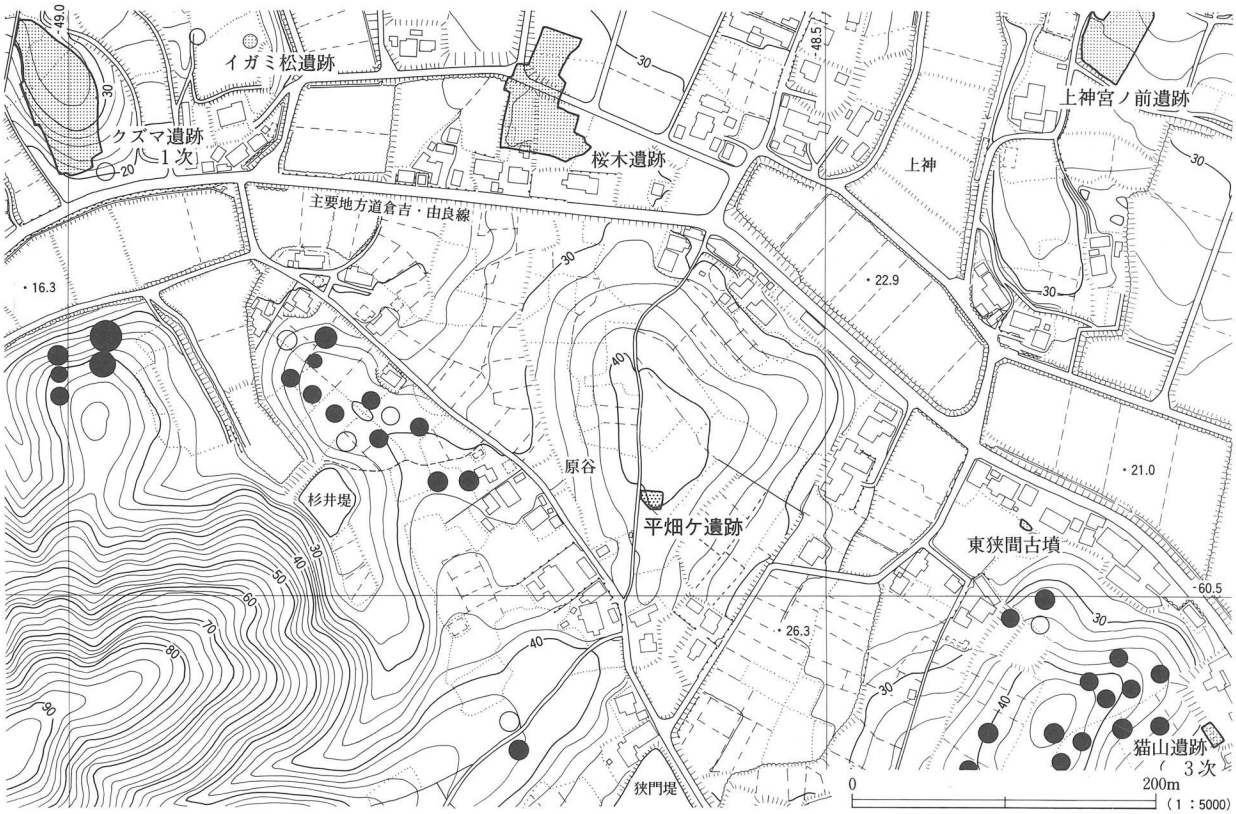


第１図　倉吉市周辺の地形と遺跡分布図

1	曲古墳群	9	上神宮ノ前遺跡	17	大谷後ロ谷墳丘墓	25	イザ原遺跡	33	若林遺跡
2	上神古墳群	10	イキス遺跡	18	四王寺跡	26	大谷大将塚古墳	34	若林２号墳
3	上神119号墳	11	取木遺跡	19	猫山遺跡	27	イザ原古墳群	35	長谷遺跡
4	クズマ遺跡	12	一反半田遺跡	20	西前遺跡	28	沢ベリ遺跡	36	大平ラ遺跡
5	イガミ松遺跡	13	道祖神峰遺跡	21	上神大将塚古墳	29	中尾遺跡	37	夏谷遺跡
6	西山遺跡	14	両長谷遺跡	22	柴栗古墳群	30	不入岡遺跡	38	中峰古墳群
7	谷畑遺跡	15	遠藤谷峯遺跡	23	屋喜山古墳群	31	米里銅鐸出土地	39	平ル林遺跡
8	桜木遺跡	16	白市遺跡	24	三度舞墳丘墓	32	八幡山遺跡		

であった。

寺院跡は、７世紀中頃に大御堂廃寺が建立され、７世紀後半に大原廃寺や斎尾廃寺（東伯町）が、８世紀には石塚廃寺が建立される。



第２図　平畑ケ遺跡調査区位置図

図版１　調査後全景（西から）

Ⅲ　調査の概要

発掘調査は、工事予定部分200㎡において実施した。調査地の基本的な層序は、上から表土、茶褐色土、淡褐色粘質土（ソフトローム層）、黄褐色砂質土（ホーキ層）、橙褐色粘質土（礫混じり粘質土）、黄褐色土（大山・倉吉軽石層）であった。調査区の東側は畑耕作による削平があり、表土下はすぐに橙褐色粘質土であった。遺構検出面は、黄褐色砂質土と橙褐色粘質土である。

調査の結果、古墳の周溝と土壙１基を確認した。

１号墳

周溝　調査区の中央部で、北東から南東に延びる古墳の周溝を確認した。溝はほぼ一直線で、北側でやや東側に曲がる様相を呈する。溝は、長さ11ｍ、中央部で幅3.3ｍ、深さ1.2ｍで、断面形はＶ字状であった。

この溝は、形状がほぼ一直線であること、溝の北側で幅がやや広くなり東側に折れ曲がる気配がうかがわれることなどから、方墳の周溝と判断した。

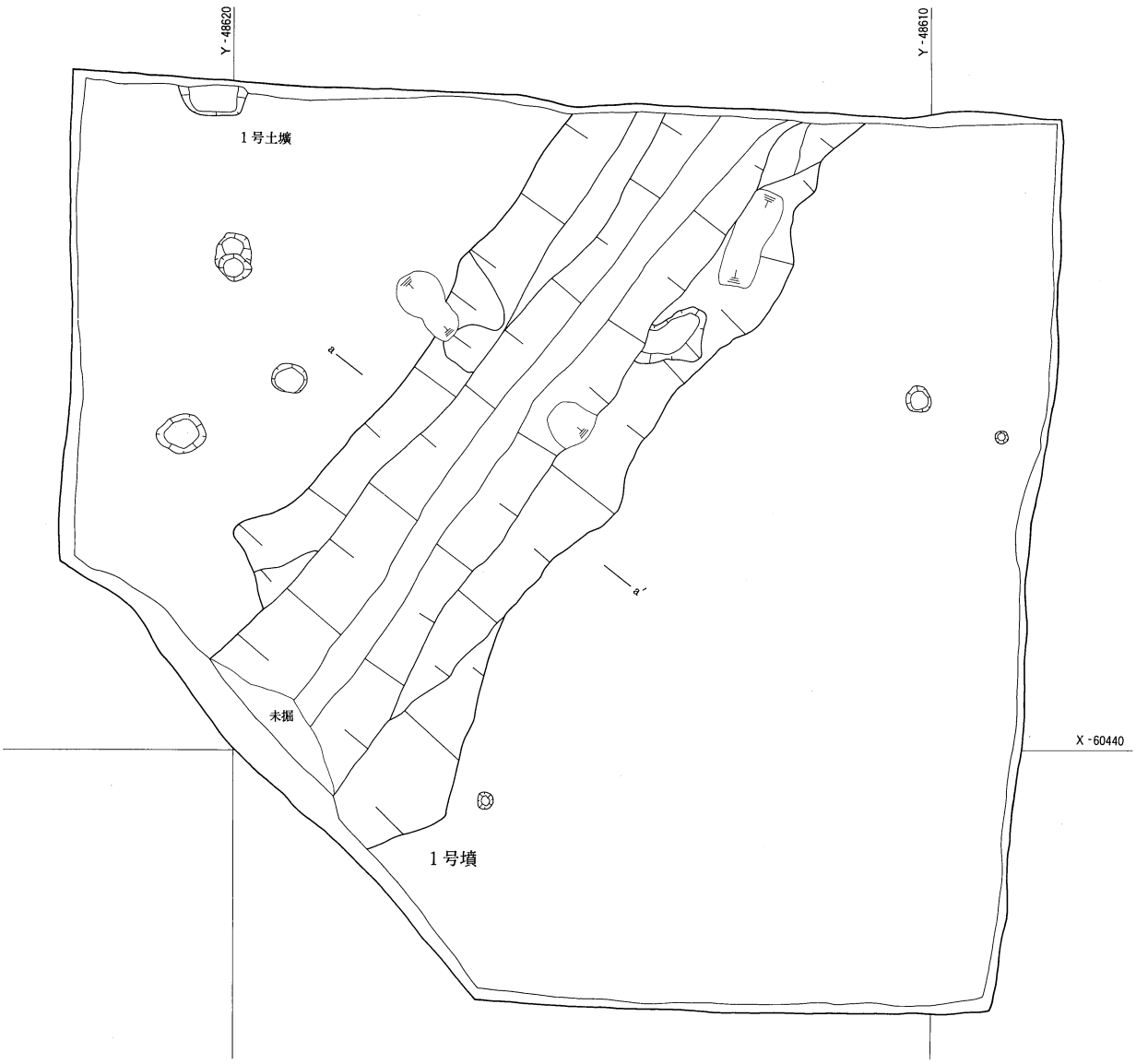
遺物は、土師器・須恵器・壺形埴輪が出土したが、小片で量も少なく時期を決定できるものはなかった。

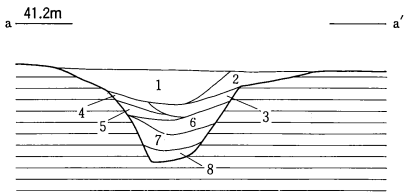
墳丘　１号墳は、調査区中央で確認した周溝から、周溝の東側を墳丘として占有すると考えられるが、墳丘等の高まりはなく、表土下は橙褐色粘質土（礫混じり粘質土）であり、畑地造成による削平が考えられる。このため墳丘は確認できなかった。

１号土壙　調査区の北西隅に所在する。大部分が調査区外にあり、南側0.5ｍを調査した。幅１ｍ、深さ0.25ｍの、断面Ｕ字状の土壙である。埋土は黒色土で、弥生土器片が少量出土した。性格は不明。

Ⅳ　まとめ

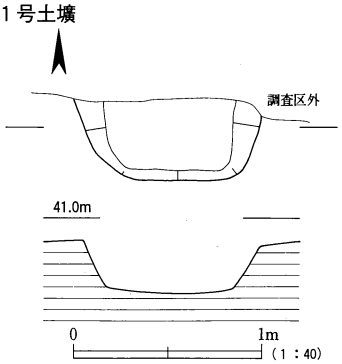
発掘調査によって、古墳の周溝と土壙を確認した。古墳の周溝は直線的であり、方墳の周溝と考えられる。しかし、調査が丘陵尾根200㎡という工事範囲のみであり、古墳の全容を確認することはできなかった。調査地は丘陵の頂部から南側に広がる緩やかな斜面という遺跡立地で、周辺には古墳が広がると推定される。





1　暗黒茶褐色土
2　黒茶褐色土
3　暗茶褐色土
4　茶褐色土
5　褐色土(ロームブロック混入)
6　暗褐色土
7　暗黄茶褐色土(D.K.P.含む)
8　黄茶褐色粘質土(D.K.P.含む)

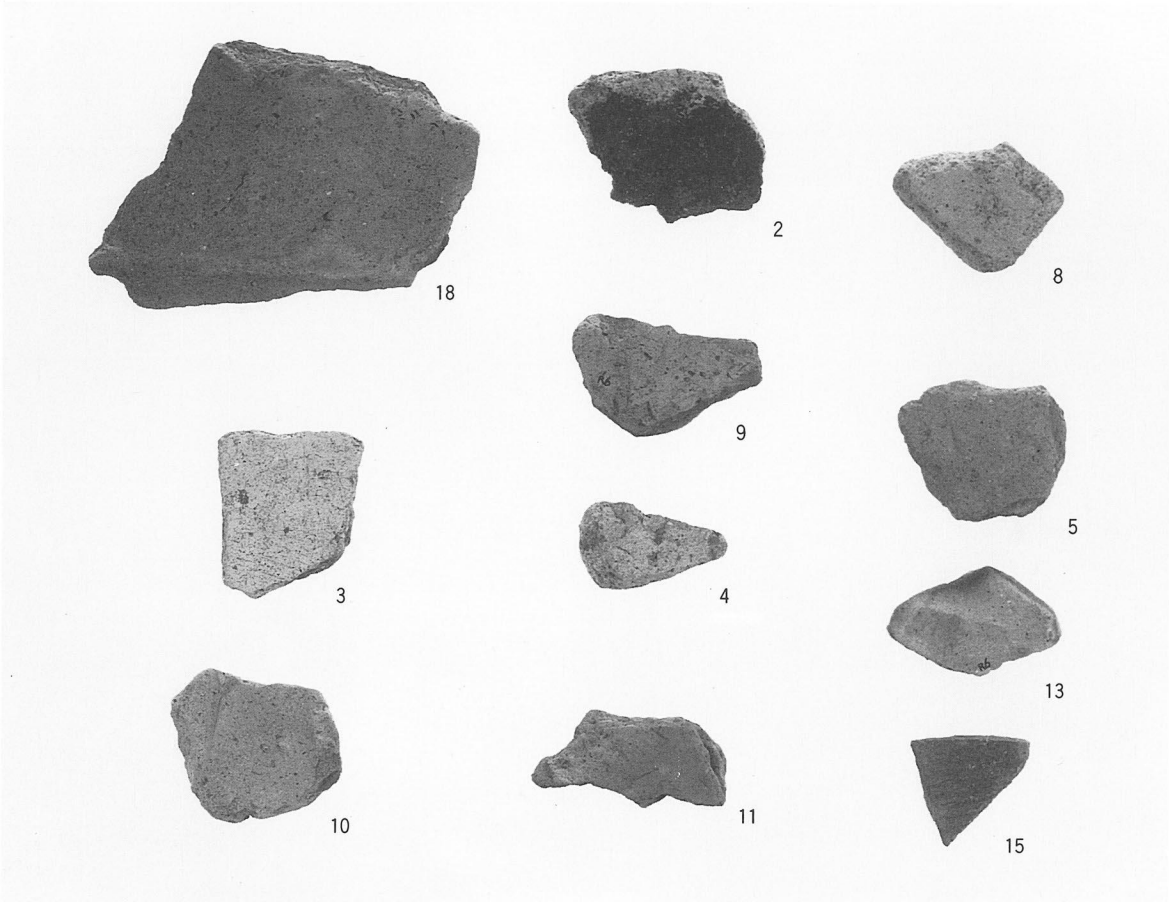
0　4m　(1：100)

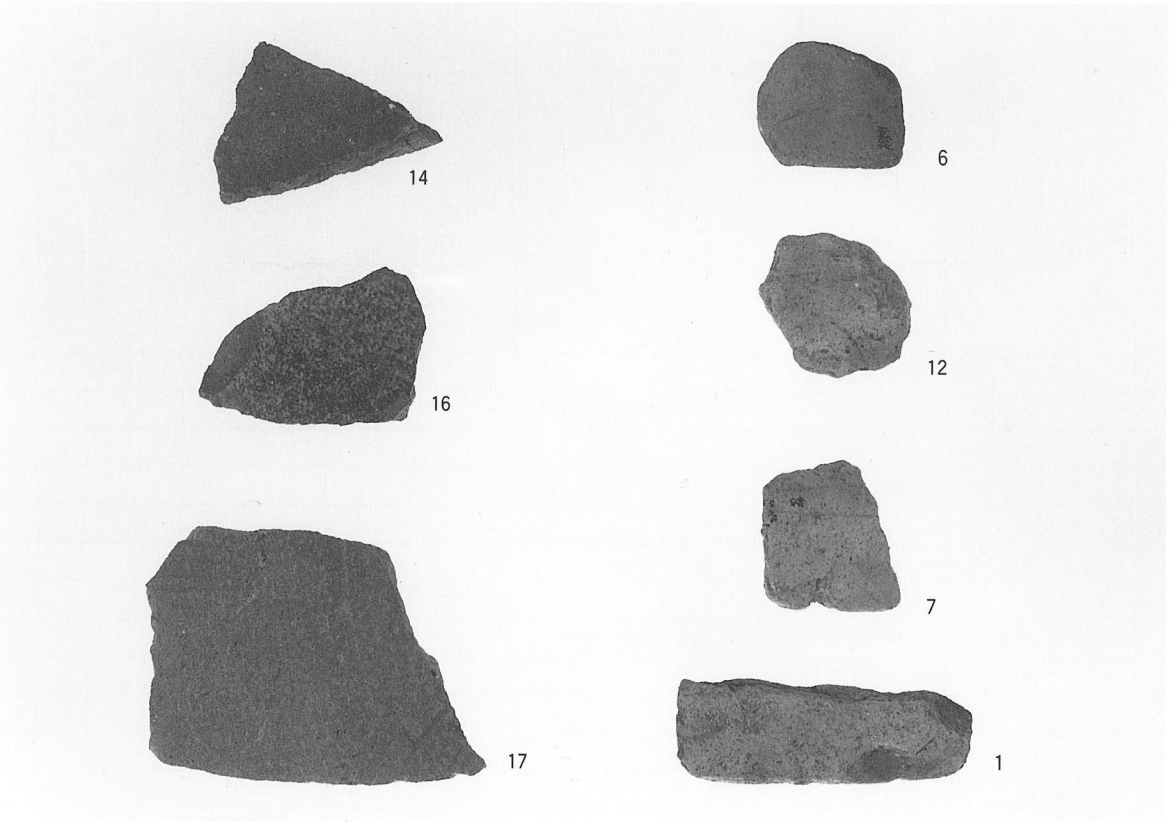


第3図　平畑ケ遺跡遺構全体図
1号土壙遺構図

図版２　１号墳周溝（南西から）

図版３　１号墳周溝断面（北東から）





図版４　１号墳出土遺物　１：土師器壷　２～７：土師器甕　８～12：土師器高坏
13：土師器坏　14：須恵器壷　15～17：須恵器甕　18：壷形埴輪

210.2
Kur
(116)
図書館

報告書抄録

書名	平畑ケ遺跡発掘調査報告書
副書名	ＮＴＴドコモ上神基地局基礎設備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	——
シリーズ名	倉吉市文化財調査報告書
シリーズ番号	第116集
編著者名	森下哲哉
編集機関	倉吉市教育委員会
所在地	〒682-8611　鳥取県倉吉市葵町722番地　TEL 0858-22-4419
発行年月日	西暦2002年３月15日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村：遺跡記号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平畑ケ遺跡	倉吉市上神字平畑ケ	31203：４ＤＫＨ	35°27′15″	133°47′42″	20010827～20010918	200㎡	携帯無線基地局設置

所収遺跡名	種別	主な時代：主な遺構	主な遺物	特記事項
平畑ケ遺跡	古墳	古墳：古墳　１基	弥生土器・土師器・須恵器・壺形埴輪	方墳の周溝

平畑ケ遺跡発掘調査報告書

NTTドコモ上神基地局基礎設備
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

平成14年3月15日　印刷
平成14年3月15日　発行

編集
発行　倉吉市教育委員会

印刷
製本　有限会社 矢積印刷